

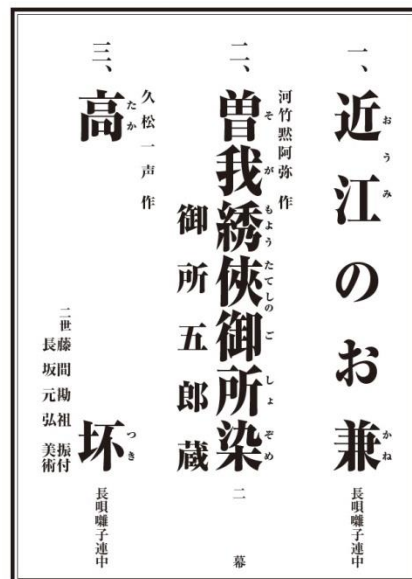
松竹大歌舞伎

北上公演 鑑賞ツアー



おのえ きくのすけ
尾上菊之助

大 太 高 次	■高 坏	甲 花 梶 逢 早	■御 所 五 郎 蔵	近 江 の お 兼
郎 郎 郎	名 冠 冠	屋 形 原	御 所 五 郎 蔵	兼
某 者 売 者		与 屋 平	蔵 州 月 門 蔵	
市 市 中 尾		市 市 中 中 中 坂 尾		中
川 村 村 上		川 村 村 村 村 東 上		村
團 橋 萬 菊		團 橋 萬 米 梅 彦 菊		梅
太 太 之		太 太 三 之		枝
蔵 郎 郎 助		蔵 郎 郎 吉 枝 郎 助		



いちかわうたお
市川團蔵



なかむら まんたろう
中村萬太郎



いちかわ きつたろう
市村橋太郎



なかむらよねきち
中村米吉



なかむらうめじり
中村梅枝



ばんどうひこさぶろう
坂東彦三郎



おのえ きくのすけ
尾上菊之助

日時：平成30年 **7月8日** (日) 昼の部 開演 12:00 (開場 30分前)

会場：北上市文化交流センター さくらホール 大ホール

出発：前沢ふれあいセンター **9:30 出発予定**

※バスの搭乗は、前沢ふれあいセンターのみとなります。

募集：定員 50名 (定員になり次第終了)

ツアー価格：11,000円 セット内容…特等席(7,000円)、パンフレット(1,300円)、
ヤマガイト(600円)、弁当、バス代 込み

ツアーチケット発売場所 前沢ふれあいセンター

発売開始
4/7(土)
9:00~

歌舞伎プレセミナー「かぶきかたん塾」開催!

歌舞伎ならではの鑑賞上のルールやポイント、様々な事柄を紹介する知識型ワークショップ。
歌舞伎の成り立ちから、今回の松竹大歌舞伎公演の演目解説まで幅広く歌舞伎について知ることができます。
歌舞伎鑑賞ツアーに参加する方はもちろん、歌舞伎に興味のある方ならどなたでもご参加いただけます。

平成30年6月17日(日) 14:00~ 前沢ふれあいセンターホール舞台

ナビゲーター 一般財団法人北上市文化創造 企画事業課 千葉真弓さん

対象：高校生以上の歌舞伎に興味のある方・歌舞伎鑑賞初心者の方
料金：無料(要予約) ※お子様同伴での入場も可能です。

松竹大歌舞伎

一、近江のお兼

長唄囃子連中

河竹黙阿弥 作

二、曾我綉俠御所染

二幕

御所五郎藏

久松一声 作

三、高

坏

二世 長坂間 陽弘 美術

長唄囃子連中



いちかわだんぞう 市川團藏



なかむら まんたろう 中村萬太郎



いちむら きつたろう 市村橘太郎



なかむら よねきち 中村米吉



なかむら ばいし 中村梅枝



ばんどう ひこさぶろう 坂東彦三郎



おのえ きくのすけ 尾上菊之助

■近江のお兼
近江のお兼 中村梅枝

■御所五郎藏

御所五郎藏 尾上東三郎
星影土右衛門 中村梅枝
臯州月 中村梅枝
逢平藏 中村米吉
梶原吾助 中村米吉
花屋五郎 中村米吉
甲屋五郎 中村米吉

■高坏

次郎冠者 尾上菊之助
高足冠者 中村米吉
太郎冠者 市川團藏
大某 市川團藏

あらすじとみどころ

■近江のお兼

琵琶湖の畔の辺りに暮らす、娘お兼はその美しい見目からは思いも寄らず、漁師を相手に自慢の力で跳ね飛ばす大力の持ち主です。しかし、そんなお兼も年頃の娘であり、それ故に自身の切ない恋心を近江の名所にかけて明かし、純朴な姿を垣間見せます。明朗で華やかな曲調と娘心を描くクドキ、長い布晒を使つての力強くもたおやかな踊りをご覧ください。

■曾我綉俠御所染

侠客の御所五郎藏と星影土右衛門は京の廓で鉢合わせ、一触即発となるが、その場を茶屋甲屋の主人が収める。実はかつて互いに陸奥の大名浅間巴之丞に勤めていたが、五郎藏と傾城臯月との不義を密告し、二人を領地から追い立てた張本人が土右衛門であった。

一方、旧主が思いを寄せる傾城逢州の身請けのために、金策に奔走する五郎藏。支払期限が迫り、どうしても金の調達ができず途方に暮れる五郎藏を心配する臯月の前に、土右衛門が金の工面を申し出る。五郎藏を想い、土右衛門の意のままに、偽りの愛想尽かしをする臯月。その本心を知る由もない五郎藏は突然の別れに激怒してしまふ…

河竹黙阿弥により書き上げられた本作は、七五調の渡り台詞や『鞆堂』の趣向、『縁切り』の場面など多くの歌舞伎の様式美が描かれています。すれ違う切ない恋模様や威勢のいい台詞回しと、みどころ溢れる作品をご堪能ください。

■高坏

主人の大名某と共に太郎冠者、次郎冠者は花見に出かける。そこで酒宴をしようとするが高坏がないことに気づき、次郎冠者に買ってくるよう命じるところが、高坏がどんなものか知らない次郎冠者は、高足売の口車に乗せられ高足を高坏と信じ込み買ってしまう。さらには、預かっていた大名の酒も高足売と飲んで酔いつぶれる始末。

戻ってきた大名たちは、次郎冠者が買ったものは高足だと指摘するものの、高坏だと言いつ張る次郎冠者については高足を履き、軽快に踊り出すのであった。下駄でタップを踏み鳴らすという独創的な趣向の明るく楽しい舞踊劇をお楽しみください。